

ASICS 通信

58th Term

2011.4.1—2011.9.30

asics
sound mind, sound body

証券コード：7936

— アシックスの軸足 — 社長メッセージ —

海外展開の加速と経営基盤の強化により、 真のグローバルカンパニーへの飛躍を目指します。

世界的な景気減速感が強まるなか、 売上は拡大

2012年3月期(第58期)の第2四半期累計期間(2011年4月1日から9月30日まで)の連結業績は、売上高は1,239億円と、前年同期間比で増収となったものの、広告宣伝費の増加と企業結合によって発生したのれんおよび無形固定資産の償却費の計上などにより、営業利益は110億円、四半期純利益は51億円と、前年同期間比で減益となりました。

欧米を中心に高い失業率や景気下振れ懸念などが見られるなか、健康志向の高まりによるランニング、マラソン人気の追い風に、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなどの地域において、引き続き現地通貨ベースで増収となりました。また、国内に

おいては、2011年3月に発生した東日本大震災の影響が懸念されたものの、ブランド広告や積極的な販売促進などの活性化策の効果が現れ、ようやく売上が回復に転じています。

グローバルレベルで ランニング事業を強化

世界的な健康志向の高まりを背景に、欧米の先進国だけでなく、アジアを中心とした新興国でも急速にランニング人口が増加しています。引き続きグローバルレベルでランニング事業の強化・拡大を図り、ランニングにおけるトップブランドの地位をさらに強固にします。

アメリカでは、はだし感覚で走ることをコンセプトとする「ライトウエイト」といっ



代表取締役社長 CEO 尾 山 基

た新たなカテゴリーの登場により、ランニングシューズのトレンドに変化が出始めています。当社は、市民マラソンのランナーからの信頼はなお厚く、また、トレンドの変

化に対応した商品ラインを投入しており、2桁成長を回復するための体制は整いつつあります。

ヨーロッパは、現地通貨ベースで2桁の売上成長が続き堅調に推移していますが、景気の減速が懸念されるため、動向を注視しているところです。

一方、アジア、中南米、中近東、北アフリカは、今後のアシックスの成長のためには重要なマーケットです。なかでも、アジアを当面の最重要地域として位置づけ、市民マラソンのサポートを行うとともに、南アジア、東南アジア、中国などでTVCMを含むメディアマーケティングの強化や自主管理売場の拡大などによる成長を目指します。また、ブラジルにおいては、南米で初となる旗艦店「アシックスストアサンパウロ」*を2011年9月にオープンしました。

活性化策により国内市場の成長軌道への回復を目指す

国内市場では、ランニングをコアとして、引き続き女性をターゲットに積極的なマーケティング展開を図ります。2007年に日本初の都市型マラソンである東京マラソンが開催されて以来、マラソンが

日本人のライフスタイルに定着してきています。この流れは関西にも広がり、2011年秋には大阪マラソン、神戸マラソンが初めて開催され、2012年3月には京都マラソンも開催される予定です。関西での都市型マラソンが本格化する本年度をチャンスととらえ、国内市場を再び成長軌道に乗せていきたいと考えています。

当社の優位性を発揮できるスポーツカテゴリーへの取り組みを強化

「アシックス・グローブ・プラン (AGP) 2015」では、強みを持つランニングだけでなく、市場規模が大きく、かつ当社の優位性を発揮できるアスレチックスポーツのカテゴリーへの取り組みを強化し、積極的な売上の拡大を目指しています。2011年10月から、サッカーに次ぐ競技人口といわれるクリケット*において、オーストラリア代表チームのオフィシャルサプライヤーになりました。これ以外にも、その国や特定の地域で取り組むべきスポーツを決めていきます。

また、アウトドアのニーズが世界的に高まるなか、2010年8月に買収したスウェーデンのアウトドア用品を扱うホグロフス社の製品の売上を日本および韓国で拡大するため、現地法人を設立しています。

一大スポーツイベントに向けたさらなるブランドイメージの向上

2008年1月から世界統一ビジュアルによるブランド広告を展開してきたことなどによって、アシックスの海外でのブランド認知度が向上しています。2012年のロンドンオリンピック、2014年のブラジルワールドカップなどの一大スポーツイベントの開催に向け、さらなるブランドイメージの向上を図ります。

その一環として、「TSUBASA (ツバ

サ)」*というデザインコンセプトを採用したオフィシャルウェアを陸上競技、バスケットボール、バレーボール、ハンドボールの日本代表チームに提供するなど、カテゴリーを超えた横断展開を図っています。今後は、国内だけでなく、海外の各競技の代表チームへと展開し、アシックスブランドの露出度を高めていきます。

真のグローバル企業として強固な経営基盤を構築

アシックスは真のグローバル企業となるべく、AGP2015を2011年度からスタートさせ、2016年3月期に連結売上高4,000億円の達成を目指しています。この達成に向け、世界の各地域において現地のニーズに合わせた戦略を展開すると同時に、今後の売上の拡大に対応するため、商品企画から生産、物流、販売に至るまでの最適なサプライチェーンの構築に取り組んでまいります。

同時に、東日本大震災で両親をなくされた子どもたちを対象とした継続的な支援を行うほか、幼児の運動能力測定サービス「キッズスポーツチャレンジ」を事業化するなど、未来を担う子どもたちの健全な育成に向けた取り組みも行っています。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年12月

代表取締役社長CEO

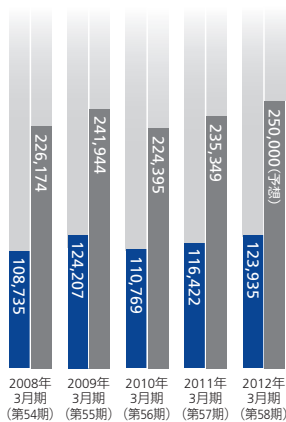
尾山 基



* 詳細は次ページの「SportiVITÀ」をご参照ください。

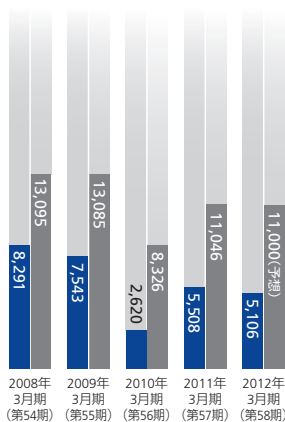
売上高

■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 百万円)



当期(四半期)純利益

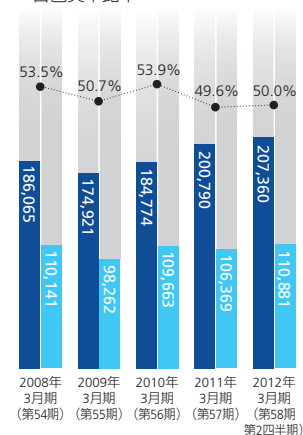
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 百万円)



総資産・純資産・自己資本比率

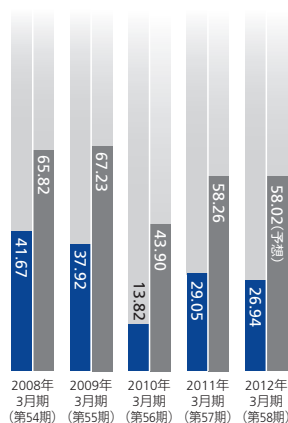
■ 総資産 ■ 純資産 (単位: 百万円)

● 自己資本比率



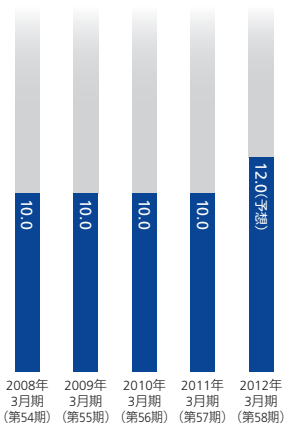
1株当たり当期(四半期)純利益

■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 円)



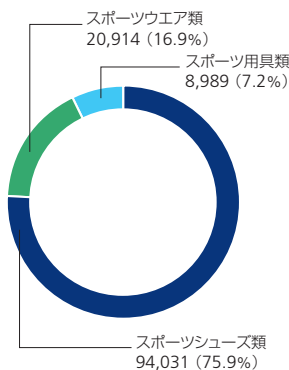
1株当たり配当金

(単位: 円)



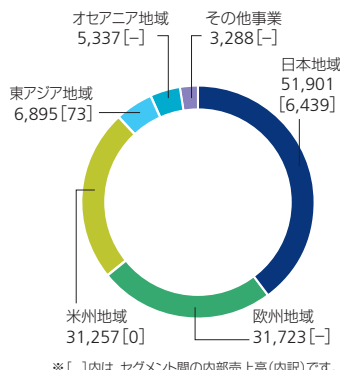
分類別売上高

(単位: 百万円)



報告セグメント別売上高

(単位: 百万円)



※[-]内は、セグメント間の内部売上高(内訳)です。

通期連結業績予想

(単位: 百万円)

	2011年 3月期 第57期(実績)	2012年 3月期 第58期(予想)	前期比増減
売上高	235,349	250,000	6.2%
営業利益	21,573	20,500	△5.0%
経常利益	19,467	18,500	△5.0%
当期純利益	11,046	11,000	△0.4%
1株当たり当期純利益 (単位: 円)	58.26	58.02	—

POINT 解説

経営成績に関する分析

当第2四半期連結累計期間における売上高は123,935百万円と前年同期間比6.5%の増収でした。このうち国内売上高は、主にランニングシューズおよびバスケットボールシューズが好調であったため、43,231百万円と前年同期間比4.3%の増収でした。海外売上高は、前連結会計年度において連結子会社とした hogroフスホールディングABおよびアシックスカナダコーポレーションの影響に加え、欧州および米州でランニングシューズが堅調に推移しましたので、80,703百万円と前年同期間比7.6%の増収でした。

売上総利益は主として売上高の増加により、54,512百万円と前年同期間比5.8%の増益でした。販売費及び一般管理費は、主に広告宣伝費などの増加に加え、前連結会計年度に行われた企業結合によって発生したのれんおよび無形固定資産の償却費を計上した結果、43,447百万円と前年同期間比10.6%増加となり、営業利益は11,064百万円と前年同期間比9.6%の減益となりました。経常利益は9,355百万円と前年同期間比10.1%の減益、四半期純利益は5,106百万円と前年同期間比7.3%の減益となりました。

財政状態に関する分析

総資産は207,360百万円(前連結会計年度末比3.3%増)、負債の部合計は96,479百万円(前連結会計年度末比2.2%増)、純資産の部合計は110,881百万円(前連結会計年度末比4.2%増)となりました。



「GEL-YETI APACHE」
インディアンモカシンを
テーマにした秋冬用の
スニーカー



「ANIMAL FIRST II」
愛らしいイヌをモチーフに
デザインした歩き始めの
赤ちゃん用シューズ



「SPEED TECH QT」
当社契約選手向けの
シューズ開発で培った知見を生かした
スピードが出やすい軽量の
野球用スパイクシューズ



「FEATHER FINE」
3 時間台でのフルマラソン
完走を目指す市民ランナー向けの
やわらかい履き心地にこだわった
ランニングシューズ



「FABRE DELUXE」
オニツカタイガーで好評の
「NIPPON MADE」
シリーズのスニーカー

南米では初となる旗艦店「アシックスストアサンパウロ」をブラジル・サンパウロにオープン



ブラジルのサンパウロ市内に直営店「ASICS STORE SAO PAULO」を2011年9月にオープンしました。銀座、原宿、ロンドン、ニューヨーク、台北、アムステルダムに次ぐ7店舗目の「アシックスストア」で、サンパウロ市内の有名なファッションブランドが立ち並び通りに位置しています。

ランニングシューズ、ウエアを中心に、サッカー、バレーボール、テニスなどブラジルでも人気の高い競技用のシューズなども展開しています。また、他の「アシックスストア」同様、三次元足形計測機とゲイトアナリシスからなる「ASICS FOOT ID (アシックスフットアイディ)」を導入し、お客様の足や走り方に合うシューズを販売しています。



「ASICS FOOT ID」

世界 10 の国と地域の陸上競技代表選手にグローバルで統一したデザインのオフィシャルウエアを提供

オフィシャルパートナー契約を結ぶ世界 10 の国と地域*の陸上競技代表選手に、デザインテーマをすべて「TSUBASA (ツバサ)」としたオフィシャルウエアを提供しました。2011年8月に韓国で開催された「第13回世界陸上競技選手権大会」から使用されています。

このウエアは、大空を自由に駆け巡る様子をイメージした翼を、身頃の両脇に大きく描いており、それぞれの国柄や風土をイメージしたカラーリングで個性を持たせました。また、これらのアイテムは当社が日本をはじめグローバルで展開しているトップアスリート向けの商品ラインをベースに作製しており、選手の持つパフォーマンスが最大限に発揮できるよう、アシックススポーツ工学研究所での研究成果を盛り込んだ、競技特性や使用シーンに応じた機能構造や素材を用いて仕上げています。

※ 10 の国と地域：
オーストラリア、
バミューダ諸島、
ブルガリア、アイルランド、
イタリア、日本、韓国、オランダ、
ニュージーランド、
スロベニア



クリケット・オーストラリア代表チームとオフィシャルサプライヤー契約を締結



2011年10月から、世界トップチームの1つとして知られているクリケット※のオーストラリア代表チーム（男女）「クリケット オーストラリア」に、シューズとウエアを提供するオフィシャルサプライヤーになりました。

当社は、オーストラリアで10年以上にわたりクリケット用シューズを展開しており、プロから一般の競技者まで特に機能面で高い評価をいただいています。今回の契約は、製品の質や当社のサポート体制などが代表チームに認められたことによるもので、クリケットを通じてグローバルでさらなるブランド認知の向上を図ります。

※ クリケット：16世紀前半にイギリスで発祥した伝統ある球技で、野球の原型といわれています。イギリスはもとより、競技人口が多いインドやオーストラリアをはじめ、ニュージーランド、パキスタン、南アフリカ、西インド諸島などでも大変人気が高く、100以上の国や地域で競技が行われているともいわれています。また、クリケットのワールドカップは世界で数億人の視聴者を集めるスポーツの一大イベントです。

ビジネスパーソンを対象にウォーキングシューズのイベントを開催

当社では、主にビジネスパーソンを対象としたウォーキングシューズ「RUNWALK（ランウォーク）」と「GIRO（ジーロ）」のさらなる認知拡大を図る施策の一環として、大阪・東京のターミナル駅近郊のイベントスペースにて期間限定でPR活動を行いました。



関西圏・首都圏のビジネス拠点である、JR大阪駅・阪神梅田駅にほど近いディアモール大阪ディーズスクエアと、出張者の多いJR品川駅構内イベントスペースで、スポーツテクノロジーを生かした高い機能が盛り込まれた当社商品の展示、商品説明、試し履きを行いました。また、JR品川駅構内イベントスペースでは商品の販売も実施し、多くの方に履き心地の良さやクッション性を実感していただきました。

幼児の運動能力を測定する「キッズスポーツチャレンジ」を本格展開

「キッズスポーツチャレンジ」は、運動を通じて幼児の健全な発育を応援したいとの思いから2011年4月から展開している新しい事業で、幼児が一般的に身につけるべき運動能力（「移動系」「平衡系」「操作系」）に基づく「走力」「跳躍力」「調整力」「バランス能力」「投力」「キック力」の6項目を測定し、運動適性や今後の運動プログラムについてアドバイスをを行う有料サービスです。

測定の対象は、主に3歳から6歳までで、幼稚園や保育園、子どもを対象としたイベント会場などで実施しています。



◀ アシックスの専門スタッフが専用の測定機を使用して子どもたちの運動能力を測定します。

会社概要 (2011年9月30日現在)

社名 株式会社アシックス
創業 昭和24年9月1日
資本金 239億7千2百万円
事業内容 各種スポーツ用品等の製造および販売
本社所在地 〒650-8555
神戸市中央区港島中町7丁目1番1
TEL:(078)303-2231
FAX:(078)303-2241
従業員数 5,850名(連結)

役員 (2011年10月16日現在)

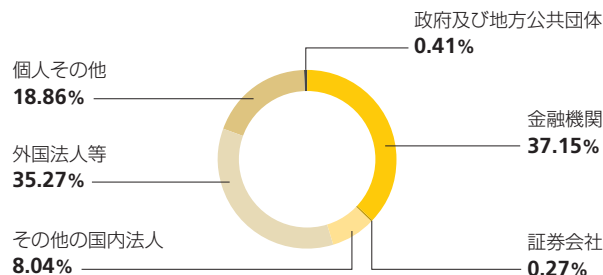
取締役会長	和田 清美	稗田 甲二
代表取締役社長CEO	尾山 基	土方 政雄
取締役	池崎 俊郎	平本 博
常務執行役員	佐野 俊之	山根 至
取締役執行役員	松尾 和人	渡辺 博司
	橋本 幸亮	常勤監査役 黒崎 鉄雄
社外取締役	梶原 健司	西野 修一
	濱岡 峰也	常勤社外監査役 田中 秀明
執行役員 (五十音順)	池田 新	社外監査役 山上 和則
	加藤 克巳	三原 秀章

株式状況 (2011年9月30日現在)

発行可能株式総数 790,000,000 株
発行済株式の総数 199,962,991 株
(うち自己株式 10,371,280 株)
株主数 11,832 名
大株主 (上位10名) 注) 持株比率は、自己株式を除いて計算しております。

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,681	5.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,417	5.0
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,858	4.1
株式会社三井住友銀行	6,607	3.5
日本生命保険相互会社	6,309	3.3
株式会社みずほコーポレート銀行	5,568	2.9
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	4,974	2.6
株式会社みなと銀行	4,208	2.2
メロンバンク エヌエーアズ エージェントフォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	3,982	2.1
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リ フィデリティ ファンズ	3,609	1.9

分布状況 (所有者別)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日 3月31日
定時株主総会 毎年6月中
単元株式数 100株
公告方法 下記のホームページに掲載いたします。
<http://www.asics.co.jp/ir/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

株主名簿管理人および
特別口座 口座管理機関
事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話お問い合わせ先 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
特別口座に関する
お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 全国本支店

※ 株式に関する各種手続き(住所変更、単元未満株式の買取・買増等)は、株主様の口座が開設されている証券会社にご連絡ください。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記みずほ信託銀行株式会社へご連絡ください。
※ 未払配当金のお支払いについては、みずほ信託銀行株式会社全国本支店または株式会社みずほ銀行全国本支店へご連絡ください。
※ 特別口座で管理されている株式につきましては、一般口座にお振り替えいただくことができます。お手続きにつきましては、上記フリーダイヤルにお問い合わせください。

IRに関する発表資料、決算発表資料、アニュアルレポート(英文)など株主・投資家向けの情報については当社ホームページ(<http://www.asics.co.jp/ir/>)に掲載しています。

